

1. はじめに

岡山地区公務員等野球大会における感染予防対策について、**JSBB 感染予防対策ガイドライン**（令和4年7月13日改訂版）に基づいて、以下の通り定める。参加者にはよく確認の上、協力することを求める。協力を得られない場合には、他の参加者の安全を確保する等の観点から、参加を取り消したり、途中退場を求めることもあり得る。

2. 事前注意事項

- ・発熱、咳、倦怠感などの風邪症状および味覚嗅覚を感じない者の参加を認めない。また、7日以内に感染者との接触や濃厚接触者と特定された者も参加を認めない。
- ・過去7日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合は参加を認めない。
- ・選手、チーム関係者、役員、審判員は球場に入る際、必ずマスクを着用すること。また、試合時の攻守交替決定時や大会運営側ならびに審判員からの諸注意をチームに伝える場合は、各々マスクを着用して行うこと。
- ・手洗い、うがい、マスク未着用時の咳エチケットの励行。
- ・代表者は、当日の参加者（マネージャや応援者なども含む来場者）全員の健康状態と連絡先などが明記されている名簿（別紙）を、大会後1週間管理し、必要に応じて提出できる状態にしておくこと。
- ・屋外利用施設内における唾、痰を吐く行為を厳禁とする。
- ・当日感染者が発生した場合には、大会は即中止とする。
- ・大会参加者に感染が判明した場合には、参加者名簿を関係機関に公表する場合がある。
- ・手指用の消毒液は各チームで準備する。
- ・救急箱も各チームで準備し、怪我の治療も感染に注意し各チームで行う。その際のゴミはゴミ袋などに厳重に密封し、持ち帰って処分する。

3. 参加者の対応

- ・会場までの移動も含めて、参加者は3密（密閉・密集・密接）に留意すること。
- ・こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施する。
- ・マスク持参のうえ、移動時や着替え時等のスポーツ活動以外の際には、できるだけマスクを着用する。
- ・マスクを外して活動する場合は、十分に周囲の人との距離を空ける。マスクを着用して活動の場合は運動強度を落とす。
- ・人との距離を2m（最低1m）確保する。ベンチ内では一定間隔を保つよう努力する。
- ・練習および試合において、全選手が密集・密接する円陣や声出し、整列などは控える。
- ・競技中のマスク着用については、選手、審判員の判断とするが、ベンチ内に居る時には、全員がマスクを着用することを推奨する。ただし、熱中症予防に配慮すること。

参考：連盟では、球審はマスク着用することが望ましいが、軟式野球の競技環境および競技の特性を考慮し、選手ならびに球審のマスク着用の義務付けは行わないとしている。

- ・肌が触れ合うハイタッチなどは行わず、各々コミュニケーション方法を模索すること。
- ・試合前後の整列は、監督またはキャプテン同士の挨拶とし、両チームはベンチ前での整列とする。
- ・用具の消毒は任意とするが、アルコールは用具を傷める場合があるので、注意のこと。
- ・試合球は天日での消毒のみとする。
- ・審判用のプロテクターは世話役機関で準備するが、面（マスク）は共用を避けるため、

なるべく各チームで準備のこと。

- 塁上での接触プレーをなるべく避けるよう、野手、走者共に努力すること。特に怪我にもつながるハードなクロスプレーは、本塁に限らず厳に謹まれない。
- 応援者については、観客席が「密」にならないように、一定の距離を保って観戦し、大声での応援を控えるようにチームごとに応援者に注意喚起を行う。
- 目、鼻、口を極力触らないよう心掛ける。
- プレー中の必要以上に大きな声での会話や、応援等は我慢する。ただし、危険回避のための掛け声などは優先される。
- タオル、ペットボトル、コップ等の共有は避ける。
- 食事は、対面を避け距離も考えて行う。
- ゴミは各自持ち帰ること。
- 試合終了時には、ベンチを空けることを優先し、他チームとの距離を保つ。
- 活動後 7 日以内に新型コロナウイルス感染症に感染した場合は、速やかにチームに連絡する。チーム責任者は世話役機関（岡山大学農学部野球部）に報告する。

